

公立幼児教育機関における「社会に開かれた」教育課程の開発実態と課題

—地域・学校・行政の連携に注目して—

李 霞*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

The Actual Situation and Issues of the Development of "Curriculum Open to Society" in Public Kindergarten-Focusing on the Cooperation Between Community, School, and Governments-

Xia LI

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

要旨：

「社会に開かれた」幼児教育課程の実現に有意義な示唆を与えるために、本論文は学習指導要領による縛りをより強く受けている公立幼児教育機関における教育課程編成の実態とともに、存在している課題の究明を目指す。そのために、M市に注目し、当市の教育理念や方針をはじめ、学校・地域との連携に対する行政のスタンスを見た後、当市の公立幼児教育機関2園における教育活動において、地域との連携に関する活動量の比較分析を行ったうえ、「社会に開かれた」幼児教育課程の実現における地域・園・行政の連携に関する課題を考察した。

キーワード：社会に開かれた教育課程，公立幼児教育機関，地域資源

1. はじめに

グローバル化の進展に伴い、世界経済を巡る不透明感の高まりから、グローバルな不確実性が高まりつつあり、それは円安や物価上昇といった形で私たちの日常生活にも大きな影響を及ぼしている。グローバル化の進展に伴って生じてくる様々な問題の解決に、従来の学校教育では対応しきれないという認識のもと、改訂された平成29年度の学習指導要領では、変化の激しい社会において、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力を手に入れるために、社会とのつながりの中で学ぶことのできる「社会に開かれた」教育課程の実現が提起され¹、学習指導要領改訂の目玉的存在となった。

この「社会に開かれた」教育課程の実現において、とりわけ、地域の課題を学校と地域が協議して決定したうえ、学校教育の目標を設定することや、教育活動において地域の人的・物的資源を活用する等、学校と地域との連携が大いに求められている。また、行政の役割は地域学校協働活動の実施とされ、地域社会にある教育資源の発掘や企業・団体との連携を行うことなどが具体的な業務となっている²。

「社会に開かれた」教育課程に対する考えが幼児教育にも貫かれており、平成30年度から全面実施となった幼稚園教育要領においては、地域・社会とのつながりを重視する「社会に開かれた」教育課程の実施が決められた。

*E-mail:k-lee@sumire.ac.jp

これまで、幼児教育においては、地域の特徴を生かす教育課程の開発研究が多く蓄積されてきた。しかし、そのほとんどは、個々の幼児教育機関での独自の取り組みを紹介したり、改善すべき課題を探求したりすることに留まっていた³。幼児教育全体を視野に入れ、教育課程編成の在り方を探ることを目的とした拙作の「地域の特色を生かした幼児教育課程編成の試み—守山市立吉身幼稚園の取り組みに焦点を当てて—」の中で、家庭と地域をつなげる特色ある就学前教育課程の編成を各幼稚園に任せているため、園のマンパワーの格差が教育課程の格差につながることを明らかにし、質のよい就学前教育課程の編成を実現するために、教職員全体の力量の向上とともに、行政によるサポート体制づくりが問われると結論づけた⁴。また、「シンガポールの幼児教育課程編成における『地域資源利用』の構想と実際」の中で、シンガポールの幼児教育課程編成・実施及びその背景を明らかにした上で、コミュニティ・保護者による協力体制に加え、政府によるサポート体制が確立されていることが、幼児教育活動における地域資源活用の後押しとなっていることを究明した⁵。シンガポールの幼児教育における地域資源活用に関する研究が日本の幼児教育課程編成に示唆を示していると考えられるものの、全体的に見るとき、これまで「社会に開かれた」幼児教育課程の開発に際して、その立つべき土台である幼児教育現場の実態究明につながる先行研究が十分に蓄積されてきたとは言い難い。

先行研究のこうした限界を補い、「社会に開かれた」幼児教育課程の実現に有意義な示唆を与えるために、本論文は学習指導要領による縛りをより強く受けている公立幼児教育機関における教育課程編成の実態とともに、存在している課題の究明を目指す。なお、論文の構成について

は、第2節では、本論文で取り上げているM市に注目し、当市の教育理念や方針をはじめ、学校・地域との連携に対する行政のスタンスを見ていく。第3節では、幼児教育課程編成の実態と課題を究明するために、M市の公立幼児教育機関2園における教育活動に注目し、地域との連携に関する活動量について比較分析を行う。第4節では、第3節での分析を踏まえ、「社会に開かれた」幼児教育課程の実現における地域・園・行政の連携に見られる課題を考察し、第5節では論文のまとめを行う。

2. M市の概況

M市は、近畿地方北東部に位置しており、地域を流れる河川沿いの四季折々の自然豊かな風景が残されている水に恵まれた土地である。縄文時代から弥生時代の古代遺跡が多くあり、日本という国の初めを知る貴重なものとして注目されている。近年京都・大阪のベッドタウンとして高い人口増加率を維持し、近畿地域住み続きたい街ランキングで連続(いい部屋ネット)上位を獲得し続けてきた⁶。2023年現在、市内には、保育園・幼稚園・子ども園などの幼児教育保育機関が合計20数か所点在している。これまで、一人ひとりの子どもに行き届くきめ細かな指導を行うために、市費による教員の雇用が推進されてきたことなど、教育に力を入れている地域としても注目を集め続けてきた⁷。

2.1 M市の教育理念・方針

心豊かでたくましい人格の形成を図り、これからの国際社会で貢献できる人の育成が教育理念とされてきたM市では、令和元年に策定された『教育行政大綱』において、「大地に根を張り、心豊かにたくましく生き抜く人づくり～ふるさとを愛し、未来に実を結ぶ教育～」⁸という基本

理念が打ち出された。この理念から、未来を担う子どもを育てるために、子どもに自らの人生をたくましく生き抜く力とともに、ふるさとや地域に対する強い愛着を育むことも意識されていることがわかる。

この理念の実現に向けて、以下3つの柱、すなわち「子どもの“生きる力”を育む（自立と共生の基盤づくり）」、「子どもの育ちを支える学校・園の教育環境を整える（子どもの夢づくり）」、「すべての人が学び、生き生きと暮らせる地域社会を創る（人づくり・まちづくり・環境づくり）」を中心に、学校・園の教育とともに、市民が生涯にわたって学び続けられる地域社会の創造に具体的な施策が講じられてきた⁹。

詳しく見ていくと、まず、第1の柱である「子どもの“生きる力”を育む」において、①確かな学力の育成、②豊かな心とたくましく生き抜く力の育成、③「いじめを許さない」学校・園づくり、④健やかな心身を育む、⑤一人ひとりのよさを伸ばす特別支援教育の充実、⑥国際社会に貢献する人材の育成、の6点の施策が掲げられている。これらの施策を通じて、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」（知・徳・体）とともに、命・自然の大切さ、挑戦する意欲や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実を通して、望ましい人間関係をつくる力や最後まで我慢強くやり抜く力、自ら学び、考え、行動する態度など、よりよい社会を創るための力を子どもたちに養うことが目指されている¹⁰。

次に、第2の柱である「子どもの育ちを支える学校・園の教育環境を整える」においては、学校・園が「子どもの夢づくりの舞台」となるように、教育内容のさらなる充実を図るとともに、地域や学校・園の特色を生かした教育の推進が目指されている。とりわけ、学びの基礎を

形成する幼児教育の充実を図り、幼児教育・小学校教育・中学校教育の円滑な接続を推進することで「学びの連続性」を大切にすることが重視され、そのために、①「幼・小・中の連携・接続」と特色ある学校・園づくりの充実、②教職員・保育者の資質向上、③学校・園環境の充実、④家庭の教育力の向上、⑤地域力を生かす、の5つの施策が示されている¹¹。

そして、第3の柱である「すべての人が学び、生き生きと暮らせる地域社会を創る」においては、個人の成長と地域社会の発展を担う社会教育の意義が強調され、地域における人と人との関わりの中で育む「人づくり」を通して、自らの個性や能力を生かして活躍できる「市民力」の育成に努めることが目指されている。そのための基本施策として、①社会教育・生涯学習の推進および青少年の育成、②図書館機能の充実、③文化・芸術の振興、④スポーツの振興、⑤文化財の活用、⑥人権教育と人権啓発の推進、の6点が掲げられている¹²。

このように、M市の教育行政において、学校・園が子どもの夢づくりの舞台となり、郷土に愛着を持ち、これからの国際社会で貢献できる人の育成が重視されている。また、子ども一人ひとりの能力を最大限に伸ばし、生きる力を確実に育成するとともに、市民が世代を越えて集い、学び、語り合い、人生を豊かにする活動や交流など、学校と地域とのつながりや連携にも重点が置かれていることがわかる。

2.2 『まると活性化プラン』

近年、M市の教育行政は、市の目指している「人・まち・自然が元気な健康都市」まちづくりと大きく連動している。M市における教育活動と地域との連携の実態を掴むために、ここでは、市内各地域の魅力のある資源を活かしたまちの

活性化を目指す『まるごと活性化プラン』を取り上げてみていく。

『まるごと活性化プラン』が最初に作成されたのは平成 25 年であった。当時、地域の人たちが主体となり、度重なる対話を経て、市内 7 つの学区それぞれを活性化するための具体策を『まるごと活性化プラン』に盛り込んだ。このプランは、歴史・自然・生活など地域にある“たか

らもの”を活かした魅力的なまちづくりを、地域が主体となって行政と連携をしながら進める指針であり、策定されてから 7 年目に入った現在（令和 5 年 1 月 27 日）も、進み具合に合わせて修正されながら実施され続けている（詳細は表 1）。

表 1. まるごと活性化プランまちづくりプロジェクト一覧

学区	テーマ	まちづくりプロジェクト
M 学区	「人がつながり、自然と歴史を大切にすまち」	A. 自治会魅力向上プロジェクト B. 歴史・伝統文化再発見プロジェクト C. 水とホテルから輝くプロジェクト
Y 学区	「自然・歴史・文化を次世代につなげるまち」	A. ホテルを守るプロジェクト B. 歴史・伝統をつなぐプロジェクト
K 学区	「人と水と歴史がつながる生成りのまち」	A. 農からはじまるお付き合いプロジェクト B. ○○○川触れ合い環境整備プロジェクト C. 水に育まれた文化発見プロジェクト
T 学区	「伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち」	A. ○○家屋敷をはじめとする歴史・伝統文化活性化プロジェクト B. ○○○湾再生プロジェクト C. 食の地産地消推進プロジェクト D. ホテル祭り・イベント推進プロジェクト E. 定住促進プロジェクト
KS 学区	「「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」未来につながるまちづくり」	A. ○○川の「水辺空間」満喫プロジェクト B. ○○○○（地域の代表的植物）活用プロジェクト C. 「身近な魅力」情報発信プロジェクト D. みんなで「つながる」プロジェクト
H 学区	「北の玄関まるごと博物館構想一人・自然・歴史がおりなす理想郷を目指して」	A. 北の玄関おもてなしプロジェクト B. まるごと博物館プロジェクト C. ○○○○森いきいきプロジェクト D. ○川周辺の自然環境保全&環境学習促進プロジェクト E. ふるさとの文化を見つめなおし守るプロジェクト F. みんなで考えよう未来プロジェクト
N 学区	「○○川とともに生き、○○川とともに栄えるまち～心が通い合う「和む」まち～」	A. ○○川河川敷・伏流水再生プロジェクト B. みんな集まれ！にぎわい活力創出プロジェクト C. 農業を元気にするプロジェクト

『まるごと活性化プラン』を参照し、筆者作成

表 1 から明らかであるように、どの学区もまちの活性化のためには、あらゆる世代や立場の住民を巻き込み、自然・歴史・文化を次世代につなげるまちづくりに力を入れているのである。とりわけ、子どもたちが自然の中で育ち、自然を

大切にし、彼らを郷土に愛着と誇りを持つ人間に育成する意図がうかがわれる。

また、次節で検討する A 園が所在する H 学区及び B 園が所在する M 学区は、高層の住宅が建ち並ぶ都会的な街並みの中に、歴史を感じられる旧街道に加え、河川なども多く流れる地域で

ある。一方で近年、開発が進んだことにより、自然の減少や、新しく引っ越しをしてきた住民の増加に伴い、住民同士のつながりの弱さや、地域活動の場所や担い手の不足などの問題を発生している地域でもある。こうした背景を持つ H 学区・M 学区は、地域住民の地域に対する愛着を育み、まちの活性化を図るために、ホテルや豊かな水資源、神社や遺跡等の自然・歴史・文化のたからものを大切に次世代へとつなげることのできるまちづくりを進めていることが表 1 からうかがわれる¹³。

以上、M 市では、教育活動やまちづくりにおいては、自然・歴史・文化といった地域の資源や特色を全面的に意識している。また、地域や学校・園、行政が一体となって子どもの育ちを支える仕組みとなっていることが判明した。こうした仕組みがどのように幼児教育に反映されているのか、次節では、A 園・B 園の取り組みを事例にみていく。

3. 幼児教育現場の実態

3.1 A 園の場合

A 園は令和 4 年 11 月現在、3 歳児、4 歳児、5 歳児の合計 65 人の園児は教職員とともに園生活を送っている。園の東側には小川が流れ、北方には湖が据えているほか、周りにはたんぼや畑など豊かな自然が広がっている。とりわけ、近くには、県営都市公園の「〇〇〇〇の森」があり、中にはたくさんの種類の木々や野草、生き物が共生している。このように、楽しみと発見に満ちた豊かな自然がすぐそこにあるのは A 園の特徴である。

当園の教育理念においては、子ども一人一人の姿をよく見つけ、一人一人の伸びようとしている芽をしっかりと育てていくことが大切だという考えがある。また、教育目標は「明るく健康で好奇心あふれる子ども・話が聞ける子ども・心から感動できる子ども・生活のルールが守れる子ども・運動の好きな子ども」の育成とされている。園は、家庭や地域との信頼関係を築き、協力を得ながら、子どもたちの健やかな成長の支援を行っている。こうした A 園の令和 3 年・4 年の主な行事は表 2 のとおりである。

表 2 から明らかであるように、当園の年間行事の大半は、「始業式・入園式・終業式」に加え、「身体測定・検尿・体重測定・内科健診・歯科検診」など健康維持に関する行事、「保健指導・安全日・避難訓練・不審者対応訓練・保育参観」など、どの園でも取り入れている活動のほか、地域や家庭との連携も意識した活動によって占められている。とりわけ、当園の活動の「絵本の貸し出し」においては、保護者が選んで借りる日や、親子で選んで借りる日を設けており、親子の絆を深めるための子育て支援を意識していることと、園の教育活動に保護者を巻き込もうとする工夫がうかがえる。そのほか、ほぼ毎月開催されている活動には、M 市が力を入れている外国語に親しみを持たせるための HEP（ハローイングリッシュ）や、未就園児及びその保護者を対象に実施する子育て支援事業の「〇〇広場」、さらに園児の体力向上とともに就学路を覚えるなど就学支援の一環とされる「レッツウォーク」や「歩いて帰る（来る）日」が挙げられる。

表 2. A園年間行事表（令和3・4年）

	令和3年	令和4年
1月	●第3学期始業式●誕生会●絵本貸出●安全日●レッツウォーク●〇〇広場●体重測定●保健指導●歩いて帰る日●キッズサッカー●避難訓練（地震⇒火災）●絵本貸出●お話し会●新入園児説明会●HEP	●第3学期始業式●誕生会●絵本貸出（保護者が選んで借りる日）●安全日●レッツウォーク●〇〇広場●体重測定●保健指導●歩いて帰る日●キッズサッカー●避難訓練（地震⇒火災）●お話し会●新入園児説明会●HEP●表現遊びリハーサル
2月	●安全日●体重測定●保健指導（4歳・5歳）●豆まき●小学校入学説明会●絵本貸出（保護者が選んで借りる日・親子で選んで借りる日）●保育参観（表現あそび）●レッツウォーク●園外保育（〇〇寺5歳）●歩いて帰る日●誕生会●キッズサッカー（4歳・5歳）●〇〇広場●HEP●獅子舞見学	●安全日●体重測定●保健指導●豆まき●小学校入学説明会●絵本貸出（保護者が選んで借りる日）●表現遊び参観●レッツウォーク●〇〇寺見学（5歳）●歩いて帰る日●誕生会●絵本貸出（親子で選んで借りる日）●サッカー教室●〇〇広場●HEP●獅子舞
3月	●安全日●お別れ会●誕生会●お別れ遠足（〇〇〇の森）●絵本貸出（親子で選んで借りる日）●愛児作業●レッツウォーク●歩いて帰る日●防火訪問●避難訓練●修了証書授与式●春探し遠足（3歳・4歳）●修了式及び終業式	●安全日●身体測定●お別れ会●誕生会●お別れ遠足●絵本貸出（親子で選んで借りる日）●愛児作業●レッツウォーク●歩いて帰る日●避難訓練（不審者・地震）●修了証書授与式●春探し遠足●第3学期終業式並びに修了式
4月	●第1学期始業式●入園式●園庭開放●安全日●キッズサッカー●絵本貸出●身体計測●検尿●誕生会●園外保育（4歳5歳〇〇〇の森）●HEP●避難訓練（火災）	●始業式●入園式●安全日●絵本貸出●HEP●身体計測●検尿●個別懇談会●誕生会●〇〇〇〇の森遠足●避難訓練（火災）
5月	●安全日●キッズサッカー●絵本貸出●ヘイケボタル放流●学級懇談会●レッツウォーク●保育参観●歩いて帰る日●HEP●体重測定●〇〇広場●バス遠足（〇〇島）●誕生会●歯科検診●〇〇公園遠足（聖火リレー応援）●避難訓練（火災）	●安全日●絵本貸出●ヘイケボタル放流●HEP●保育参観●学級懇談会●レッツウォーク●体重測定●聴力検査●歩いて帰る日●〇〇広場●バス遠足（〇〇島）●誕生会●愛児作業●歯科検診●〇〇公園遠足●避難訓練（火災）●検尿●親子散歩（〇〇〇〇の森）
6月	●安全日●検尿●バス遠足（〇〇ヶ丘）●キッズサッカー●絵本貸出●〇〇広場●レッツウォーク●内科検診●体重測定●視力聴力検査●歩いて帰る日●親子交通安全教室（PTA）●誕生会●保育参観●避難訓練（地震）●お話し会●親子遠足（〇〇〇〇の森）●HEP	●安全日●検尿●絵本貸出●1・5交流●HEP●体重測定●内科検診●プール開き●〇〇広場●自由参観●避難訓練（地震）●レッツウォーク●お話し会●歩いて帰る日●PTA子育て研修会●誕生会
7月	●安全日●キッズサッカー●心と心をつなぐあいさつ運動●絵本貸出●PTA あいさつ運動●レッツウォーク●体重測定●保健指導●お話し会●歩いてくる日●人権教育にかかわる園訪問●あいさつ運動●HEP●〇〇広場●避難訓練（不審者）●地区懇談会●誕生会●〇〇タイム●お楽しみ会●第1学期終業式	●心と心をつなぐあいさつ運動●安全日●絵本貸出●カレーパーティー●笹貫い●HEP●レッツウォーク●PTA あいさつ運動●体重測定●保健指導●歩いてくる日●誕生会●PTA お楽しみ会●避難訓練（不審者）●お話し会●避難訓練（火災）●〇〇広場●終業式
	8月夏休み	8月夏休み
9月	●第2学期始業式●安全日●絵本貸出●身体測定●保健指導●HEP●誕生会●防火訪問●キッズサッカー●お話し会●レッツウォーク●歩いてくる日	●始業式●安全日●絵本貸出●愛児作業●身体測定●保健指導●HEP●誕生会●〇〇タイム●レッツウォーク●〇〇広場●歩いてくる日●キッズサッカー●避難訓練（大規模災害・引き渡し）●お話し会
10月	●安全日●絵本貸出●体重測定●保健指導●保育参観●HEP●レッツウォーク●〇〇広場●歩いて帰る日●芋ほり●バス遠足（3歳〇〇の里4歳〇〇山）●誕生会●〇〇公園遠足（5歳）●避難訓練（不審者対応）●キッズサッカー（5歳）●△△寺見学●	●安全日●体重測定●保健指導●保育参観●HEP●絵本貸出●レッツウォーク●〇〇広場●歩いて帰る日●小学校就学時健康診断●防火訪問●学区民のつどい（5歳児和太鼓演奏）●誕生会●〇〇公園遠足（5歳）●避難訓練（火災）●キッズサッカー（5歳）●バス遠足
11月	●安全日●体重測定●バス遠足（5歳〇〇山登山）●園内作品展●民生委員あいさつ運動●キッズサッカー●PTA あいさつ運動●青少年美術展覧会●保育参観●避難訓練（大規模災害・引き渡し訓練）●聴力・視力検査●お話し会●誕生会●HEP●〇〇広場●絵本貸出●レッツウォーク●歩いて帰る日●小学校就学時健康診断●牛舎見学	●安全日●心と心をつなぐあいさつ運動●園内造形展●絵本貸出●バス遠足（〇〇の里）●PTA あいさつ運動●レッツウォーク●保育参観●5・5交流●体重測定●聴力検査●歩いて帰る日●〇〇広場●絵本貸出●お話し会●不審者対応訓練●キッズサッカー●HEP●牛舎見学●避難訓練（火災）●誕生会
12月	●安全日●個別懇談●絵本貸出●HEP●レッツウォーク●体重測定●保健指導●就園時健康診断●音楽会●PTA 人権研修●歩いて帰る日●誕生会●アルバム個人写真撮影●キッズサッカー●お話し会●避難訓練（火災2次）●〇〇広場●お楽しみ会●第2学期終業式	安全日●個別懇談●絵本貸出●レッツウォーク●体重測定●保健指導●音楽会●歩いて帰る日●〇〇広場●HEP●△△寺見学●避難訓練（地震⇒火災）●誕生会●PTA お楽しみ会●お話し会●お楽しみ会●第2学期終業式

筆者作成

他方、地域資源の活用については、「避難訓練」「不審者対応訓練」といった地域の公的機

関との連携活動がある。年に一回程度、地域の消防署や警察署の方に来園してもらい、指導を行うことになっている（残りの回数は園の教職員が担当されているという¹⁴）。

一方で、地域の自然資源や人的資源を活用する活動が一年を通して多く取り組まれていることが見て取れる。

まず、地域の自然資源の活用については、「〇〇公園遠足」「バス遠足」「〇〇〇〇の森遠足」などの活動が年間を通じて持続的に展開されていることがわかる。次に、地域の人的資源の活用に関しては、とりわけ「お話し会」という地域の方たちによって構成される絵本の読み聞かせボランティア団体の活動、「キッズサッカー」といった地域のボランティアによる子どもたちにサッカーを教える活動が多く確認される。そのほかには、2月に5歳児が〇〇寺を訪れ、地獄絵図を鑑賞することで貴重な文化財に触れる活動や、10月・12月に△△寺を訪れ、座禅体験をしたり、礼儀作法を学んだりすることで、日本の伝統文化に触れる機会が設けられている。4月に園の所在地域にある「ホテルを守る会」の方にヘイケボタルについてのお話を園児に聞かせ、5月の初頭に、4歳児5歳児は地域の田んぼでホテルの幼虫の放流を行った。年間行事表には示されていないが、6月中旬に園は保護者に家庭からホテルを見に行ってもらうよう啓発活動を行い、たくさんの親子がホテルを飛んでいる美しい様子を観察することができた。9月に地域の和太鼓グループに来園してもらい、和太鼓の演奏を行ったうえ、園児に和太鼓に直接に触れる「〇〇タイム」が実施された。10月に実施された「学区民のつどい」において、5歳児が参加し、和太鼓の演奏を行った。6月と11月の二回にわたって実施された

隣接している小学校の1年生と年長児との

「1・5交流」や5年生と5歳児の「5・5交流」に加え、地域にある「牛舎見学」を行い、M市教育委員会が主催している子どもを心豊かに育ち、地域の活性化と地域の子育て力を高めることを意図した「心と心を繋ぐあいさつ運動」なども確認できる。

さらに、園児の保護者が園の運営にかかわるPTAを通じて、園は家庭との連絡を密にし、幼児教育の充実に家庭からの協力を得ている。なお、A園のPTA活動としては、「愛児作業・子育て研修会・心と心をつなぐあいさつ運動・お楽しみ会」などがあり、活発に活動されている¹⁵。

3.2 B園の場合

B園は令和4年には、3歳児、4歳児、5歳児の合計103名の幼児が、教職員の指導のもとで園生活を送っている。

園の所在地域には、宅地開発が進み、商業施設や工場なども多く、都市化が進んでいる一方、神社や遺跡、川や水路、公園など、昔ながらの環境も残っている。また、新しく引っ越しをしてきた家庭が多いため、地域にまだ馴染めていない園児が多くいる¹⁶。園児の実態としては、興味や関心があることには一生懸命取り組むこと、また、友達の意見や考えに素直に耳を傾ける姿はある一方で、自分で選んだり、判断して行動したりすることには苦手な姿が見られるという特徴がある。こうした園児たちの実態を踏まえて、当園は「心豊かでたくましい子」の育成を目指して、とりわけ「自分がすき、友達がすき、地域がすき」に関する取り組みに力を入れている。

表3は令和3年・4年のB園行事表であ

表3. B園年間行事表（令和3・4年）

令和3年		令和4年	
1月	●3学期始業式●雑煮会食●あいさつ運動●歩いて帰る日(5歳)●園外保育(4・5歳○○神社)●体重測定●保健指導●△△広場●お話し会●大根収穫●避難訓練●安全日●大根収穫パーティー●人権教育園訪問●ハローイングリッシュ(5歳)●誕生会●不審者侵入対応訓練	●3学期始業式●雑煮会食●あいさつ運動●歩いて帰る日(5歳)●園外保育(4・5歳○○神社)●体重測定●保健指導●△△広場●お話し会●大根収穫●避難訓練●安全日●大根収穫パーティー●人権教育園訪問●ハローイングリッシュ(5歳)●誕生会●不審者侵入対応訓練	
2月	●あいさつ運動●安全日●豆まき●歩いて帰る日(5歳)●体重測定●保健指導●保育参観●サッカー広場(5歳)●ハローイングリッシュ●△△広場●誕生会●お話し会●お別れ会	●あいさつ運動●安全日●豆まき●歩いて帰る日(5歳)●体重測定●保健指導●保育参観●サッカー広場(5歳)●ハローイングリッシュ●△△広場●誕生会●お話し会●『○○踊り教えて』の日●お別れ会	
3月	●サッカー広場(5歳)●あいさつ運動●安全日●誕生会●ホテルの幼虫放流●身体測定●歩いて帰る日●修了証書授与式	●サッカー広場(5歳)●あいさつ運動●安全日●誕生会●ホテルの幼虫放流●身体測定●歩いて帰る日●修了証書授与式●春探し遠足(3・4歳)	
4月	●始業式●入園式●あいさつ運動●身体測定●安全日●絵本貸し出し開始●歩いて帰る日(5歳)●検尿●個別懇談会●ハローイングリッシュ●誕生会●身体測定●避難訓練	●始業式●入園式●身体測定●あいさつ運動(4・5歳)●ハローイングリッシュ(5歳)●安全日(4・5歳)●絵本貸し出し開始(4・5歳)●個別懇談●誕生会●避難訓練(4・5歳)	
5月	●あいさつ運動●体重計測●バス遠足(○○丘)●歩いて帰る日●△△広場●安全日●歯科検診●保育参観●ハローイングリッシュ●避難訓練●誕生会●芋苗植え	●ハローイングリッシュ(5歳)●あいさつ運動(4・5歳)●体重測定●保育参観●△△広場(4・5歳)●歩いて帰る日(5歳)●サツマイモ苗植え(4・5歳)●バス遠足(4・5歳)●歯科検診●体重測定●学級懇談会●避難訓練(4・5歳)●誕生会●検尿	
6月	●安全日●あいさつ運動●検尿●絵本貸出●体重測定●歩いて帰る日●バス遠足●ハローイングリッシュ●人と自然に優しい道づくり体験●内科検診●△△広場●避難訓練●視力聴力検査●保育参観●誕生会●5-5交流	●ハローイングリッシュ(5歳)●検尿●絵本貸し出し開始●玉ねぎ収穫(5歳)●歩いて帰る日(5歳)●あいさつ運動●プール開き●内科健診●△△広場●体重測定●○○川川遊び(5歳)●避難訓練(地震)●保育参観●5-5交流(5歳)●笹もらい(5歳)●体重測定●視力●聴力検査●誕生会●キッズサッカー(5歳)●ホテルマップ	
7月	●安全日●△△広場●避難訓練●誕生会●歩いてくる日●心と心をつなぐあいさつ運動●夏祭り●誕生会●個別懇談●体重測定●保健指導●お話し会●カレーの日●ハローイングリッシュ●不審者対応訓練●一学期終業式	●ハローイングリッシュ(5歳)●△△広場●誕生会●歩いて来る日(4・5歳)●避難訓練(不審者対応)●夏祭り●個別懇談●体重測定●保健指導●個別懇談●カレーの日●避難訓練(火災)●誕生会●終業式	
8月夏休み		8月夏休み	
9月	●第2学期始業式●安全日●誕生会●あいさつ運動●歩いてくる日●ハローイングリッシュ●身体測定●保健指導●避難訓練(地震)●運動遊び参観	●始業式●あいさつ運動●歩いてくる日●お話し会●誕生会●身体計測●保健指導●避難訓練●運動遊び参観	
10月	●安全日●あいさつ運動●お話し会●バス遠足(5歳○○山4歳○○山3歳○○公園)●避難訓練(地震⇒火災)●体重測定●保健指導●歩いて帰る日●運動遊び参観●ハローイングリッシュ●就学時健康診断●いもほり●不審者侵入対応訓練●誕生会●視力聴力検査	●ハローイングリッシュ(5歳)●あいさつ運動●△△広場●避難訓練(地震⇒火災)●体重測定●保健指導●歩いて帰る日(5歳)●誕生会	
11月	●安全日●防火訪問●心と心をつなぐあいさつ運動●歩いてくる日●あいさつ運動●園内作品展●体重測定●引き渡し訓練●避難訓練●花の苗植え(4歳)●ハローイングリッシュ●誕生会●お話し会●△△広場●保育参観●就園児健康診断	●安全日●心と心をつなぐあいさつ運動●歩いてくる日●ハローイングリッシュ●体重測定●引き渡し訓練●園内作品展●キッズサッカー●△△広場●誕生会●お話し会	
12月	●安全日●保育参観●歩いて帰る日●△△広場●誕生会●あいさつ運動●個別懇談会●お話し会●ハローイングリッシュ●体重測定●保健指導●避難訓練●お楽しみ会●第2学期終業式	●ハローイングリッシュ●歩いて帰る日●音遊び参観●個別懇談●お話し会●△△広場●体重測定●保健指導●お楽しみ会●誕生会●第2学期終業式	

筆者作成

る。

表3から当園の取り組みの傾向が見えてくる。すなわち、「始業式・入園式・終業式」に加え、「身体測定・体重測定・保健指導・内科健診・歯科検診・検尿」など健康維持に関する行事、「避難訓練・防犯教室・保育参観」など日々の生活を安全に過ごせるための活動、及び地域や家庭との連携を意識した活動が年間行事のかなりの割合を占めていることである。

その次に頻度の高い活動として、5歳児を対象とする「ハローイングリッシュ」という外国語に親しみを持たせるための活動、「あいさつ運動」、「歩いて帰る日（来る日）」という活動、さらに、地域に住む未就園児及びその家庭への子育て支援の一環として展開される「△△広場」がある。「あいさつ運動」は子どもたちを心豊かに育て、地域の活性化と地域の子育て力を高めることを目指して、M市教育委員会が主催している「心と心をつなぐあいさつ運動」に連動している活動であり、「歩いて帰る日

（来る日）」は園児たちの体力づくり及び就学支援を視野に入れたものである。これらの活動はM市内の幼児教育保育機関で普遍に展開されているものである。

他方、地域資源の活用に関する活動には、地域の畑を借りて行う「サツマイモ苗植え」、「玉ねぎ収穫」という畑活動や、地域の自然環境に親しみ、自然の中で遊ぶ「バス遠足」に加え「○○○川川遊び（詳細は第4節）」、地域の大人と交流する要素を持つ「笹貫い」といったものが確認できる。また、年に数回の「避難訓練」・「防犯教室」といった活動のうち、一回程度、地域の消防署や警察署の方に来園してもらうことに留まっており、残りは園の教職員が担当していることはA園と同じである。これらの行事のほかに、就園児の保護者有志で構成さ

れ、主体的に実施されている活動として、就園児とその家庭を地域とつなぐためのものがあり、年に2~3回実施されている。例えば、節分の日には、有志のメンバーが鬼の恰好をして、園児に退治されるなど、節分の活動を行ったり、秋には園庭開放日を使って、園庭で園児たちに宝探しや鬼ごっこなどを楽しめるように活動の企画・準備に携わったりしてきた。

以上のように、B園の教育活動において、保護者有志の活動は地域の人的資源を有効に利用し、園児と地域とのつながりを持たせるために貢献していることが明らかである。しかし、それ以外の年間行事の内容からは、地域資源の活用が限定されていることも明らかである。

4. 地域・園・行政の連携における課題についての考察

以上、幼児教育現場における地域・園の連携の実態についてみてきた。本稿で取り上げた2園とも教育活動に地域との連携を図っているものの、地域資源活用に関する活動の量について、B園よりもA園の方が多いことがわかった。つまり、園の教育活動における地域との連携の程度にバラツキが存在しているのである。

なお、二つの園の年間行事から「ハローイングリッシュ、レッツウォーク、あいさつ運動」及び、「○○広場」や「△△広場」など、M市の就学前教育事業・子育て事業や、M市教育委員会主催の事業に関連する活動が均等に行われていることが明らかである。また、教育委員会に主催される月に一回の園長会議があることも判明した。園長会議において、各園の行事の取り組み方や保育の質の向上に向ける取り組みなどについての意見交換が行われ、結果的には教育の質の保障につながる可以说うまでもない。これらのことを踏まえて、第3節で判明

した二つの園の教育活動における地域資源活用の格差が、園の置かれている地域資源の格差そのものによる影響と推察できる。

地域資源活用におけるバラツキの存在は教育課程の格差、ひいては教育の機会的平等の保障を阻害しかねない。教育の機会的平等の保障という観点からも、教育活動において園の置かれている地域資源の格差による影響を生み出す根本的な理由を究明する必要がある。以下、「協力者」会議の存在、地域資源開発における園の実態、及び研究開発活動から見えてきたもの、の三つの視点から、考察していく。

4.1 「協力者」会議の存在

M市の幼児教育保育機関には「協力者」会議（園の活動に協力するという意味で「協力者」会議と名付けさせていただく）のような存在がある。そのメンバーは当該園の園長、園のPTAのリーダー、園の所属する自治体の自治会・各主要団体の長、民生委員、場合によって連携のある小・中学校の校長など数名で構成される。「協力者」会議のメンバーの数及び構成が各園に任されているため、園によってその数は異なり、M市の場合、「協力者」会議のメンバーがわずか3名しかいない園もある。「協力者」会議の構成員が一堂に集まり会議を開くことが無く、園の活動の内容に応じて、その都度関係メンバーのみ協議に参加する形となっている。

園にとって、こうした「協力者」会議は、国や園の教育方針を、地域と共有する場であり、教育活動の実施に必要な地域の人的・物的支援を、地域に求める場でもある。「確かに、場合によって幼稚園・保育園の園長は『地域学校協働活動推進員』という肩書をもったりすることもあるが、地域資源の発掘や連携などに行政

から人的・物的支援がほとんど望めず、園が中心となって、一方的に地域に支援をお願いしている状態である」¹⁷ というコメントから、地域資源の発掘に関する業務はほとんど園に任せており、行政の関与が欠けている状態がうかがわれる。地域資源の開発におけるこうした行政の関わりの欠如が、各園の「協力者」会議のメンバー数におけるバラツキを生み出し、教育活動における地域資源活用のバラツキも生み出すことにつながると考えられる。

4.2 地域資源開発における園の実態

幼児教育保育機関の教育活動における地域資源開発の実態を掴むために、本稿で取り上げているA園、B園のほかにも、M市にある複数の幼児教育保育機関の責任者にインタビューを実施した。以下、そのインタビューの内容を示しておく。

・「地域資源の開発において園主体となっている。園と地域との連携については行政から人的資源も物的資源もほとんど期待できない。基本は、園が一方的に地域の方をお願いしている」。

・「コロナ禍の中で異動してきたため、コロナ禍前に地域の方の協力を得て実施した活動がすでに中断している。その中断した活動を復活するため、地域の方をお願いをしなければならぬが、生活地域も違うため地域の方とのつながりがなく、本当に困っている」。

・「以前は入園式や運動会、卒園式など園の行事に地域の方に来ていただいていた。その時、園の運営や教育活動についての協力をこれらの場を借りてお願いできたが、コロナ禍でこれらの行事もなるべく最小限に行っているため、地域の方にも来てもらえなくなり、ますます地域とのつながりを持ちにくくなってい

る」。

・「これまで園の教育活動に協力して下さった方は、高齢で今後協力できなくなってくる方が多い。協力して下さる方を園で探さなければならず、本当に大変。何より、園に協力しても報酬も出せない。そのため、なかなか、協力してくださいとも言にくい」。

・「教育委員会には学校の教育活動に協力してもらえる方たちが登録している人材バンクがある。しかし、登録者が充実していないうえ、地域の方でないとなかなか園の活動に協力してくださいとお願いできない状態である。なぜなら、園の活動は一回切りのものではなく、継続しているものがほとんどだから」。

・「人材バンクに登録している方で、園の活動に協力した場合、一年間で図書カード一枚は貰えるかな。ボランティアで園の運営に協力して下さる方に出会った場合、図書カード一枚でももらえるように、その方に人材バンクに登録するよう、園から声かけをしている」。

以上の声から¹⁸、幼児教育保育機関における地域資源活用に見られるバラツキが、これまで行政による人的・物的サポート体制が欠けている中、各幼児教育保育機関に地域資源の発掘を任せていた実態によるものであることを改めて確認した。とりわけ、公立の幼児教育保育機関の場合、園長を含む教職員の定期異動があることも無視できない。なぜなら、個人のネットワークを生かして開発した地域の資源が教職員の異動とともに継承されにくいという状況が生じているからである。なお、こうした状況はコロナ禍によってより一層顕著になったことも明らかとなった。さらに、第2節で行われたM市の教育理念や方針についての分析から、地域や学校・園、行政が一体となって子どもの育ちを支える仕組みとなっていることが明らかであ

る。にもかかわらず、実際の教育活動においては、園が一方的に地域との連携に奔走しており、本来、積極的に主導する立場にある行政側の不在が目立つものである。

4.3 研究開発活動から見えてきたもの

ここから、2021年にスタートした筆者とB園とともに取り組んでいた幼児教育課程開発について紹介する。

2021年6月から8月の間、園児の実態及び地域資源に対する前期調査という活動を行った。具体的には、筆者はB園の園長先生と園児の実態、地域での生活において、園児及び園児の家庭の抱えている課題、さらに、その課題を解決するために利用できそうな地域の資源について話し合いを重ねた。その結果、住宅開発が進み転居者や核家族が多いため、保護者の価値観が多様であることに加え、地域生活や園の生活に馴染めていない園児及びその保護者が多くいること、そのため、地域に対する愛着の育成という面では課題が存在することが判明した。こうした課題を解決するために使えるような地域の資源として、いくつかの候補をあげたが、最終的には園の近くにある〇〇神社、〇〇川に加え〇〇踊りを取り入れることにした。

2021年9月から11月の間は、地域とのつながりを探っていた時期に当たる。〇〇踊りは民俗文化財にもなっており、現在その保存会が中心に活動しているため、幼児教育活動に〇〇踊りを導入するにあたっては、保存会と繋がる必要があった。その保存会の情報を知りたく、2021年9月初頭、筆者はM市の文化財を担当する部署に連絡し、研究開発の趣旨とともに、〇〇踊り保存会と連絡を取りたい旨を伝えた。2ヶ月が経とうとする10月末になっても、返事がなかったため、個人ルートを通じて、よう

やく保存会の主要メンバーである〇〇自治会と連絡が取れたのは12月の初頭であった。自治会会長に、研究開発の趣旨と協力をお願いをしたところ、研究に対する協力を快諾してもらった。その後、12月末まで、筆者・B園の園長先生及び自治会会長の三人で、〇〇踊りを園児にも楽しめる方策を探り続けた。そして、年明けの2022年2月に、自治会長に来園してもらい、5歳児に〇〇踊りについてのお話を言い、踊りの教授を行ってもらうことが実現された。

〇〇踊りを園教育活動に導入できたことをきっかけに、B園の教育活動に、〇〇自治会からのさらなる協力が得られた。2022年6月に、〇〇神社の外を流れる〇〇川で、5歳児たちが自治会のメンバーと一緒に、自治会に用意してもらった道具や遊具でお魚や貝、水草などの生き物探しを体験した。子どもたちは取れたお魚や貝、植物などを自治会メンバーに事前に用意していた水槽に入れ、生き物を眺めながら、地元の川に生息する生き物について学ぶ経験を得た。

〇〇神社、〇〇踊り、〇〇川遊びの実現は自治会の全面的な協力があってこそのものであった。確かに、〇〇川遊びに関しては、川の水量の調整は、行政によるサポートを受けているものの、全体的に見たときには行政によるサポートが欠けているため、幼児教育保育機関による一方的な地域資源開発の難しさを実感した出来事でもあった。今回の研究開発活動を通じて、限られた地域資源をどうにかして教育活動に活かそうと取り組まれたB園の園長先生をはじめ、幼児教育保育現場で必死に頑張っている園長先生たちの姿を目の当たりにして、教育活動に献身的に奮闘する先生方に脱帽する思いでいっぱいになった。

5. 終わりに

今日、教育改革の目玉である「社会に開かれた」教育課程の実現に向けて、教育活動に学校・地域と行政の連携が大いに問われている。また、本論文で取り上げているM市の教育理念やまちづくりの方針に対する分析からも、M市では地域や学校・園、行政が一体となって子どもの育ちを支える仕組みとなっていること、教育活動においては自然、歴史、文化といった地域の資源や特色を全面的に意識していることが明らかとなった。しかし一方で、「社会に開かれた」教育課程の実現に対するM市の構想とは裏腹に、教育活動の実施に必要な地域の人的・物的支援など地域資源の開発を、一方的に園にその業務を任せており、本来、主導的な立場に立って推進活動を進めるはずの行政の関与が欠けていることが明らかとなった。

本論文で明らかにした「社会に開かれた」教育課程の実現におけるM市での課題は、決してM市だけのことではなく、全国の都道府県に普遍的に存在していることが推察される。また、こうした課題が見られた背景には教育政策において「社会に開かれた」教育課程の実現における行政の役割に対する言明が欠けていることと関連することが考えられ、今後の筆者の研究においてその究明を目指していく思いである。

「社会に開かれた」教育課程の実現に向けた行政の関与の不十分さが、教育活動における地域資源活用の格差を生み出し、子どもたちが教育活動を通じて得られる経験の格差を生み出し、さらに、教育の機会的な平等を阻害する一因になりかねない。一方で、第3節で見られた二つの幼児教育保育機関で均等的に展開されている市の就学前教育事業・子育て事業や、市教育委員会主催の事業に関連する活動、及び教

育の質の保障につながる園長会議から、行政による制度的な枠組みの構築によって、教育活動における地域資源活用の格差をなくす可能性も

見えてくる。今後、「社会に開かれた」教育課程の実現に、行政によるこうした制度的な枠組みの構築が手掛かりになると考える。

引用注・参考文献

- 1) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhuu02_03.pdf. アクセス：2023/2/01.
 - 2) 文部科学省「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/syakaini-hirakareta.html> アクセス：2023/1/30.
 - 3) 渡邊伸樹「幼稚園・保育所・認定子ども園・家庭などにおける学校数学カリキュラム開発の基礎研究（1）3歳児前期の環境設定について」『数学教育学会誌』56（1-2），75-88頁，2015。小林健一「幼児期における『地球市民』教育の展開と行方—秋田県内の幼稚園・保育園における保育の実態調査をふまえて」『聖園学園短期大学研究紀要』41，21-36頁，2011（3）。三村真弓，吉富功修，大橋美代子等「幼・小連携の音楽カリキュラム開発の基礎研究（3）斉唱時における子どもの歌唱能力の発達に着目して」『学部・付属学校協働研究紀要』38，87-92頁，2009。宮里智恵，神山貴弥，鈴木由美子など「かかわる力を育む幼小一貫の道徳教育カリキュラム開発のための基礎研究」『学部・付属学校協働研究紀要』37，279-284頁，2008。松尾砂織，村上直子等「ニューバーサルシティズンシップを育む国際コミュニケーション学習のあり方を求めて」『学部・付属学校協働研究紀要』37，133-138頁，2008。住野好久「幼小連携における『交流活動』の意義と実践課題」『岡山大学教育実践総合センター紀要』6（1），101-110頁，2006。三堀仁「幼稚園・小学校間連携によるカリキュラム開発研究—生活科の単元開発をとおして」『研究集録』24，25-28頁，2004。など。
 - 4) 李霞・松村都子「地域の特色を生かした幼児教育課程編成の試み—守山市立吉身幼稚園の取り組みに焦点を当てて—」『滋賀短期大学研究紀要（42）』49-62頁，2017。
 - 5) 李霞「シンガポールの幼児教育課程編成における『地域資源利用』の構想と実際」『京都大学地域連携教育研究』（7）39-51頁，2022。
 - 6) https://www.eheya.net/sumicoco/sumicoco2021/ranking/shiga/continue_area.html アクセス：2023/1/30.
 - 7) 地域活性化の実績
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/sesaku/h28data/25_shiga_a_16.pdf アクセス：2016/8/30
 - 8) https://www.city.moriyama.lg.jp/kyoisomu/documents/dai2kitaikou_3.pdf アクセス：2023/1/30.
 - 9) M市教育基本方針
<https://www.city.moriyama.lg.jp/kyoisomu/h28kyouikukihonnhousin.html> アクセス：2016/8/30
 - 10) 同上。
 - 11) 同上。
 - 12) 同上。
 - 13) 『まるごと活性化プラン』
<http://www.city.moriyama.lg.jp/chiikishinko/documents/marukatuplan2.pdf> アクセス：2016/8/30
 - 14) A園の園長先生へのインタビュー，2021/11/16。
 - 15) 同上。
 - 16) 筆者の見解
 - 17) M市にある公立・私立の幼児教育機関の責任者へのインタビュー。2022年10月から12月の間。
 - 18) 同上。
- 謝辞：
本研究の遂行においてM市A園・B園及び自治会の多大なるご協力を頂いたことを御礼申し上げます。
- 本研究は JSPS 学術振興会科学研究費補助金（課題番号 18k13078）の助成を受けたものの一部である。